

令和7年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名

日本赤十字社北海道支部災害救護訓練 避難所運営協力

2 指導教員：教授 根本 昌宏

参加学生：1年生 2名、2年生 2名

3 要旨

令和7年9月17日～19日の3日間、日本赤十字社北海道支部（札幌）において令和7年度赤十字災害救護訓練が行われた。北海道内10病院が札幌に参集し、感染症の発生や多様化する災害救護活動等において、必要な知識・技術を身に付け災害への対応能力の向上を図ることを目的とした。今年度は能登半島地震対応を踏まえた新しい内容が追加され、本学からは1，2年生4名が訓練の演習時の避難者役、傷病者役として参画し、避難所に見立てたエリアにおいて演技を行うことで、各病院の救護班の実動演習に関わった。学生は、避難者役を演じながら、避難者として支援者に情報を伝えることの難しさ、避難者としての孤独感も感じていた。クロノロジー、無線、EMISの入力など実践的な演習についても学生は一緒に演習に入った。

学生は災害医療の一端を実践し、災害看護で学んでいた内容を確認する機会となり、赤十字だからこそ学べる看護を実感した。

令和7年度 学生支援事業活動報告書

1. 活動名 第15回日本赤十字六看護大学学生交流会
2. 指導教員 日本赤十字東北看護大学 看護学部准教授 藤原 美加
参加学生 看護学部看護学科2年生 8名
3. 要旨
 - 1) 日時：令和7年8月26日（火）～27日（水）
 - 2) 場所：日本赤十字東北看護大学、なまはげ館、男鹿水族館G A O、道の駅おが
4. 参加大学
 - 1) 日本赤十字北海道看護大学
 - 2) 日本赤十字看護大学（広尾キャンパス・大宮キャンパス）
 - 3) 日本赤十字豊田看護大学
 - 4) 日本赤十字広島看護大学
 - 5) 日本赤十字九州国際看護大学
 - 6) 日本赤十字東北看護大学（当番校）
5. テーマ 自然災害と地域支援 ～秋田県の大雨被害をふまえてできること～
6. 目的
 - 1) 災害支援の現場理解と支援方法を学び、今後の地域支援活動に活かす
 - 2) 赤十字六大学の学生同士が交流し、災害支援に向けた連携とネットワークを築く
7. 活動内容
 - 1) 大学紹介・自己紹介、アイスブレイク（共通点探しゲーム）
 - 2) 秋田県の大雨被害についての講義
日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部 講師 及川 真一先生より
 - 3) 講義を基にした演習・バーベキュー
 - 4) なまはげ館、なまはげ伝承館の見学
 - 5) 男鹿水族館G A O見学
 - 6) 「居酒屋 秀」での昼食交流
 - 7) 「道の駅おが」での交流・フリータイム
8. まとめ
今回の交流会を通して、自然災害に関する知識や支援のあり方を学び、看護学生としての役割を考える機会となった。特に、秋田県で発生した大雨被害に

ついでに講義と演習を通じて、災害支援の現場で求められる行動や判断を具体的に学ぶことができた。

災害時に地域住民にどのように寄り添い、実際にどのような支援が必要になるのかを考えるきっかけとなり、今後の地域支援活動に活かせる実践的な学びを得られた。また、全国の赤十字六大学の学生が一堂に会することで、互いの大学の特色や取り組みを知るとともに、学生同士のネットワークを広げることができた。グループ活動や自由時間での交流を通じて、他大学の学生と支援に対する意見を交換し、多様な視点を学ぶことができたことは貴重な経験となった。さらに、なまはげ館や男鹿水族館での体験を通じて秋田の文化や地域性を学ぶことで、災害支援において地域理解が重要であることを実感できた。

今回の経験を通じて、学んだ知識や繋がったネットワークを今後の学業や地域での活動に生かし、将来的には赤十字の一員として被災地や地域社会で貢献できる看護師を目指していきたいと考える。

令和7年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名

第15回 日本赤十字六看護大学学生交流会

- 2 指導教員：看護学部准教授 遠藤 花子
さいたま看護学部学務部長 喜多 里己

参加学生：看護学部 2年 2名
さいたま看護学部 1年 3名

3 要旨

2025年8月26日～27日に日本赤十字東北看護大学で開催された。看護学部から日本赤十字六看護大学学生交流会サークルに所属する2年生2名、さいたま看護学部から1年生3名計5名で参加してきた。

1日目は、日本赤十字東北看護大学で、水害についての講義の受講とBBQを行った。講義では、普段東京で生活をしている私たちでは、経験しないような水害の怖さについて学ぶことができた。BBQではテントを立てることで、避難所作成をする練習となった。2日目は、なまはげ伝承館、男鹿水族館GAOに行った。伝統行事の1つであるなまはげや海に近いという、秋田県土地や文化について体験することができた。

2日間を通して、自然災害が起きたときに私たちにできることや、秋田県の特徴について学ぶことができたため、とても有意義な時間となった。

令和7年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名

第15回日本赤十字六看護大学交流会

2 指導教員：日本赤十字豊田看護大学 准教授 清水みどり、講師 長尾佳世子

参加学生：看護学部 3年 4名

1年 2名

3 要旨

日本赤十字東北看護大学で開催された交流会に、本学から6名の学生が参加した。「自然災害と地域支援～秋田県の大雨災害と私たちにできること～」をテーマに、被災者経験と避難所生活の課題、被災者のニーズ、災害ボランティアの重要性に関する講演を聴講した。これらを通して多くの気づきや行動することの大切さを共有できた。

男鹿観光では、なまはげ伝承館、男鹿水族館等の見学を通して地域文化や自然に触れるとともに、各大学の学生達と親睦を深めた。

トラブル発生等に備え、出発前に緊急時の連絡先を確認した。

全員が全日程に参加し、無事に帰名した。

次年度開催校は、日本赤十字広島看護大学で、今年度の経験を踏まえ無理のない旅行計画の立案などを支援していきたい。

令和7年度 学生支援事業活動報告書

- 1 活動名
第15回日本赤十字六看護大学学生交流会
- 2 指導教員：日本赤十字広島看護大学：教授（学生支援委員長）山村 美枝
参加学生：看護学部1年 2名
- 3 要旨

日本赤十字六大学学生交流会は2日間にわたり開催されました。

初日は日本赤十字東北看護大学にてオリエンテーションが行われ、自治会長の挨拶、施設案内、自己紹介の後、グループに分かれて「共通点探し」を実施しました。対話を通じて自然に打ち解け、学生同士の交流が深まりました。

続いて、同大学の学生による水害の事例紹介を通じて災害を身近に考える契機となり、及川真一講師による講義では「災害ごみは宝物である」という言葉が印象に残りました。

被災者の生活の痕跡に目を向ける重要性や、ボランティア活動は経験を問わず誰でも参加でき、行動すること自体に意義があると学びました。

さらに、屋外でのBBQでは避難所で活用されるテント設営を体験し、災害時の生活を実感しました。今回の交流会を通じて災害への理解を深め、今後の学びや地域活動に活かしたいと考えます。

令和7年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 日本赤十字六看護大学学生交流会

2 指導教員：日本赤十字九州国際看護大学 学務部長 本田 多美枝 参加学生：2年次生 4名

3 要旨

令和7年8月26日から27日の2日間、本学学生4名は日赤6看護大学交流会に参加した。交流会は日本赤十字東北看護大学（秋田県）を会場に開催され、全国の日赤系看護大学6校から学生が集まり交流と学びを深めた。初日は「秋田の水害」をテーマに被害の現状や復旧支援、ボランティア活動についての講話を聴講し、災害看護にまつわる知識と多角的な視点を得る貴重な機会となった。翌日はバーベキューや観光地巡りを通して各大学の学生と積極的に意見交換を行い、地域課題を共有しながら看護学生としての視野を大きく広げることができた。今回得た学びを学内外に活かし、今後の災害看護及び今後実践力向上に活かしていく。